

研 究 概 要

No. 63
令和6年度



八王子市立中学校教育研究協議会

「研究概要」の発刊に寄せて

八王子市教育委員会
教育長 安間 英潮

八王子市立中学校教育研究協議会による「研究概要 63号」の発刊を心より お祝い申し上げます。

令和6年12月、学習指導要領の改訂を見据え、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方」について、文部科学大臣から中央教育審議会に諮問がなされました。その中では、日本の教育の現状について、全国学力・学習状況 調査における地域間格差は縮小傾向にあること、OECD の PISA 調査において高位層の割合が増え、低位層の割合が減るなどの改善傾向にあることなど、日本の初等中等教育が、質の高い教師の努力と熱意に支えられ、大きな成果を上げ続けていることが示されました。

一方で、「主体的に学びに向かうことができている子供の増加」、「現行の学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば」、「デジタル学習基盤の効果的な活用」などの課題も指摘されています。「令和の日本型学校教育」を持続可能な形で継承・発展させることを前提としつつ、これからの時代にふさわしい学校教育の在り方が問われています。

今後、私たち教育に携わる人間一人ひとりが、先の成果や課題を踏まえ、激しい変化の中を生きていく子どもたちに対し、真に必要な教育とはどのようなものを絶えず考え、実践していかなければなりません。そして、その過程において、教師間の協働は必要不可欠です。志を同じくする仲間と実践を共有し、議論する中で、自分にはなかった視点を得て、指導力は磨かれていくものと考えます。そのような教師の研鑽の場となるのが、本研究協議会です。

教師として教え続けるためには、学び続けなければなりません。今後も、日々のより良い授業実践のために、本研究協議会において、仲間たちとの協働による学びが充実することを期待しております。そして、各部会における研究成果が八王子の子どもたちにとって、より良い教育活動として還元されることを願っています。

結びに、八王子市立中学校教育研究協議会会長の八王子市立恩方中学校 校長 植田恭正先生をはじめ、各部の研究を推進していただきました各部長・副部長の先生方並びに講師として御指導を賜りました多くの先生方にお礼を申し上げますとともに、本誌 63号の発刊にあたりまして御尽力いただきました 編集委員の先生方に感謝申し上げ、挨拶いたします。

はじめに

八王子市立中学校教育研究協議会
会 長 植 田 恭 正

本会は、中学校教育の進展に向け、会員相互の連携を緊密にし、会員による研修を通して八王子市立中学校の教育に寄与することを目的に、昭和33年に発足した歴史と伝統ある会です。

今年度は、各教科・領域において874名の市立中学校教員が会員となり活動を進めてきました。各部会では、各ブロックの研修会・日ごろの実践や成果を持ち寄り分析・分科会の設定や教科の研究大会との連携・経験豊富な講師の方々を招聘するなど工夫して研修・研究が進められました。一斉部会では、指導と評価の一体化のための学習評価の改善や実践的な演習を取り入れ、『令和の日本型学校教育』の構築を目指す内容も扱われました。これからの教育課題にも向き合う良い機会になったと前向きな意見が多くありました。

各部長の校長先生や副校長先生の指示のもと、教員の働き方改革の配慮も頂きながら研修を進めていただきました。オンライン会議の実施、Google フォーム活用、さらに生成AIの導入も取り入れられました。今後は公務のDX化に向けた内容も視野に入れながら研修を推進していかなければならないと感じています。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた後の研修の在り方を今一度精査し、会員相互が力を合わせ、教育課程や各教科等の学びを通じて生徒の育成すべき資質・能力を整理する必要があると考えます。是非、ご協力をお願い致します。

最後になりましたが、各教科・領域の部長・副部長としてご尽力いただきました校長先生方・副校長先生方、研究・研修の推進役として会の運営や実務を担っていただきました各部幹事の先生方に感謝申し上げるとともに、本会の活動を支えていただきました八王子市教育委員会の皆様に心よりお礼を申し上げます。

目 次

あいさつ	八王子市教育委員会 教育長	安間 英潮……………	1
はじめに	八王子市立中学校教育研究協議会 会長 植田 恭正……………		2
I	八王子市立中学校教育研究協議会のあゆみ……………		4
II	11月6日 中教研一斉部会報告……………		7
III	令和6年度 八王子市立中学校教育研究協議会 事業報告……………		8
IV	各部のあゆみ……………		9
V	研究のまとめ……………		17
VI	令和6年度 八王子市立中学校教育研究協議会 組織……………		44

I 八王子市立中学校教育研究協議会のあゆみ

年度	会 長	会員数 (名)	予算 (円)	特記 (講演その他)
3 5	住友 国春	3 1 0	225,110	講演 (科学博物館技師 村内必典 氏) 15 部会で発足
3 6	住友 国春	3 2 4	230,143	『研究概要』第 1 号発行
3 7	広沢 堯雄	3 5 0	325,053	教科書採択年であり、教科書に着いての研究会を多く開催する。
3 8	広沢 堯雄	3 5 0	419,853	各部研究会を盛んに実施する。
3 9	広沢 堯雄	4 0 0	492,973	各部研究会を盛んに実施する。
4 0	広沢 堯雄	4 0 0	518,909	講演「最近の国際情勢」(読売新聞論説委員 宮崎吉政氏)
4 1	田倉 里一	4 0 0	570,549	講演「スタジオ 1 0 2 の裏話」 (NHK 102 デスク 上田光太郎 氏)
4 2	田倉 里一	4 0 7	585,011	講演「明治百年と維新期の人々」 (東京経済大学教授 色川大吉 氏)
4 3	飯島 一吉	4 1 4	698,849	講演「マスコミの社会的責任」 (前 NHK 関西放送局長 藤本 清 氏) 新学習指導要領が示され、その研究を活発に行う。
4 4	飯島 一吉	4 1 6	814,041	講演「少年をよき社会人とたらしめるため、教師と家庭に望むもの」(東京婦人補導員長 高崎セツ子 氏)
4 5	岸田林太郎	4 1 0	866,229	講演「最近の情勢」(毎日新聞論説員 升岡忠敏 氏)
4 6	岸田林太郎	4 0 9	916,205	講演「これからの日本」(東洋大学教授 金岡秀友 氏)
4 7	田所 理作	4 1 5	907,737	講演「今後の政局と課題」 (日本経済新聞社社会部次長 一木 豊 氏) 新教育課程本格実施、『研究概要』に研究論文を掲載する。
4 8	渡辺 哲郎	4 6 2	1,128,112	講演「人間教育の問題点」(東洋大学教授 金岡秀友 氏)
4 9	渡辺 哲郎	4 7 5	1,285,029	講演「現在の教育の問題点」 (読売新聞論説委員 加藤地三 氏) 教育相談部新設、20 部となる。
5 0	小山 秀一	4 9 4	1,493,132	講演「現代学校教育の課題」 (東京家政学院大学教授 青木章心 氏)
5 1	小山 秀一	5 3 9	1,648,133	講演「日本人の自然の対応する知恵」 (國學院大學教授 樋口清之 氏) 学校数、教員数が著しく増加する。
5 2	秋山 保男	5 6 1	1,820,274	講演「教育課程の改善と今後の学校教育」 (文教大学教授 北沢弥吉 氏)
5 3	秋山 保男	6 5 4	1,909,970	講演「焼き物の話」(陶芸家 井上郷太郎 氏) 「ゆとりと充実」という教育課程の基準が示される。
5 4	池田 角三	6 7 1	1,945,007	講演及び実技「車人形について」(西川古柳 氏) 56 年度からの新教育課程への移行にかかわり各部が活発に研究する。
5 5	大原ヒロシ	7 1 7	1,767,098	講演「これからの情報社会」 (TBS 解説委員 新堀敏明 氏) 新教育課程試行にかかわり各部が活発に研究する。
5 6	大原ヒロシ	7 7 0	2,163,961	講演「禅における師弟の絆」 (広園寺専門道場老師 丹羽慈祥 氏) 新教育課程本格実施、その研究を活発に行う。

5 7	小谷野 茂	8 1 1	2,455,736	講演「1本の母の腰ひも」(NHK放送用語委員 扇谷正造氏)
5 8	田村 元次	8 6 0	2,610,483	講演「原点に立つ教育と実践」 (長野篠ノ井高等学校 若林繁太 氏)
5 9	田村 元次	8 9 2	2,761,096	講演「シルクロードを取材して」 (NHKチーフプロデューサー 遠藤文太 氏)
6 0	國山 直輝	9 2 7	2,690,874	講演「非行を生む母親教師」 (TBSアナウンス部 榎本勝起 氏)
6 1	柴山 一郎			講演「現代の教育問題に関する考え方」 (東京学芸大学教授 辰巳敏夫 氏)
6 2	古内 保		2,597,299	講演「やる気を育てる生活指導」 (千葉大学教授 坂本彰一 氏)
6 3	刈田 仁	9 0 9	2,572,822	講演「体と心の健康について」 (東京慈恵医科大学長 阿部正和 氏)
元	腰原 信夫	9 0 3	2,532,570	講演「動物の子育てに学ぶ」 (都立多摩動物公園長 矢島 稔 氏) 各部会の出席率が課題となる。
2	長谷川義次	9 0 5	2,545,361	講演「今、地球で何が起きているか」 (NHKディレクター 原口卓也 氏)
3	舘 比佐男	8 7 9	2,568,108	講演「八王子車人形：三番叟、小栗判官、洋舞」 (西川古柳一座) 連合音楽会、中P連との共催になる。
4	谷合庸次朗	8 4 5	2,614,553	講演「ベンガルの大地に歌をはぐくむ」 (シャプラニール 川口良幸 氏) 八王子テレメディアで芸能祭と連合音楽会が放送される。
5	伊藤 順雄	8 1 6	2,696,945	講演「エイズと教育」(杏林大学客員教授 南谷幹夫 氏)
6	東海林和衛	8 1 3	2,816,275	講演「日本近代文学と西洋音楽」 (中央大学 中村洪介 氏)
7	吉田 盛彦	7 8 4	2,711,892	講演「来るべき世紀の課題」 (東洋大学名誉教授 金岡秀友 氏) 学校の小規模化が進行／席書大会を廃止
8	斎藤 春樹	7 6 4	2,733,015	講演「国連とPKO」 (新聞資料センター主宰 川辺一郎 氏)
9	渡辺 和則	7 5 5	2,884,831	講演「国際化を考える」(NHK特別主幹 高島肇久 氏) 台風のため狂言教室を一部中止する
1 0	岡田 文彦	7 5 5	2,884,831	講演「成長期のスポーツ障害とその防止について」 (日本医科大学整形外科助教授 伊藤博元 氏)
1 1	井上 正	7 4 8	2,597,106	講演「21世紀の青少年が精神難民にならないために」 (家庭教育カウンセラー 内田怜子 氏)
1 2	鈴木 博久	7 4 5	2,597,106	講演「21世紀の国際社会に生きる生徒をどう育てるか —新しい教育改革が求めるもの—」 (共立女子大学総合文化研究所教授 松山幸雄 氏)
1 3	松上 一彦	7 2 2	2,523,667	講演「今の学校の何が問題なのか『学校批判』を克服する道」 (多摩大学経営情報学部客員教授 山岸駿介 氏)
1 4	福島 良樹	7 0 9	1,235,477	講演「共に生きる—ヒトと微生物、ヒトとヒトとの共生」 (東京医科歯科大学大学院教授 藤田紘一郎 氏)
1 5	山村幸太郎	7 2 6	1,245,793	講演「ゲーム脳の恐怖と脳の健康」 (医学博士・日本大学教授 森 昭雄 氏) 心身障害教育部新設、15部会になる。

1 6	倉田 茂	7 3 7	904,809	講演「感性を育てる中学校教育」 (明星大学教授 高橋史朗 氏)
1 7	加藤 重義	7 3 5	1,077,287	講演「非行少年の現状と中学校教育に求められること」 (元横浜鑑別所長 今村洋子 氏)
1 8	加藤 重義	7 1 0	1,161,102	講演「今、企業で求めている人材～そのために中学校教育 で培っておくこと」(法政大学キャリアデザイン学部 教授・元古河電気工業株式会社社長 桐村晋次 氏)
1 9	松木 実	7 5 3	1,076,551	講演「マクドナルドの人材育成～13万人のアルバイトと5 千人の社員がブランドを育てる」(日本マクドナルド ハンバーガー 遠藤真司 氏) 情報教育部廃止、14 部会になる。心身障害教育部を特別支援教育部とする。
2 0	松木 実	7 6 2	996,556	講演「8年間の東京都教育委員会の経験を生かし、八王子 の教員に期待するもの」 (前東京都教育委員・永世棋聖 米長邦雄 氏)
2 1	高塚 健治	7 7 8	948,503	講演「ラグビー人生とコーチング」 (早稲田大学ラグビー部蹴球部監督 中竹竜二 氏) 会則と活動内容の見直しを進める。
2 2	高塚 健治	7 9 4	882,202	講演「学校問題のよりよい解決に向けて」 (弁護士 三坂彰彦 氏) 多様化する保護者や地域住民の要望への対応
2 3	山田 治	8 0 1	929,336	総会を代議員で行い、講演会は開催しなかった。 一斉部会を11月2日に設定実施した。
2 4	山田 治	8 2 1	929,336	総会を代議員で行う。 一斉部会を11月7日に設定実施した。
2 5	山田 治	8 4 3	1,001,804	総会を代議員で行う。 一斉部会を11月6日に設定実施した。
2 6	枝村 晶子	8 3 9	1,025,521	総会を代議員で行う。 一斉部会を11月5日に設定実施した。
2 7	枝村 晶子	8 3 4	1,072,080	総会を代議員で行う。 一斉部会を11月4日に設定実施した。
2 8	枝村 晶子	8 4 8	1,056,941	総会を代議員で行う。 一斉部会を11月2日に設定実施した。
2 9	前田 賢一	8 6 1	1,007,846	総会を代議員で行う。 一斉部会を11月1日に設定実施した。
3 0	前田 賢一	8 4 7	955,610	総会を代議員で行う。 一斉部会を11月7日に設定実施した。
元	持田 晃	8 6 2	945,421	総会を代議員で行う。 一斉部会を11月6日に設定実施した。
2	渡辺 恭秀	8 6 0	66,387	総会を代議員で行う。(書面決議) 一斉部会はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止。
3	渡辺 恭秀	8 8 6	950,387	総会を代議員で行う。(書面決議) 一斉部会を11月10日に設定実施した。
4	渡辺 恭秀	8 8 3	1,135,368	総会を代議員で行う。(書面決議) 一斉部会を11月9日に設定実施した。
5	植田 恭正	8 7 4	1,401,376	総会を代議員で行う。(書面決議) 一斉部会を11月8日に設定実施した。
6	植田 恭正	8 7 4	1,351,749	総会を代議員で行う。(書面決議) 一斉部会を11月6日に設定実施した。

Ⅱ 11月6日 中教研一斉部会報告

部会名	内容	会場
国語部	各ブロックからの報告	八王子市教育センター
社会部	研究授業・研究協議	第五中学校 第六中学校 由木中学校
数学部	研究授業・研究協議	第一中学校 陵南中学校 松木中学校
理科部	研究授業・研究協議	第六中学校 甲ノ原中学校 七国中学校 別所中学校
音楽部	研究授業・研究協議	みなみ野中学校
美術部	研究授業・研究協議	陵南中学校
保健体育部	研究授業・研究協議	由木中学校
技術部	研究授業・研究協議	由井中学校
家庭科部	研究授業・研究協議	第五中学校
英語部	研究授業・研究協議	第五中学校 川口中学校 陵南中学校 別所中学校
養護部	講演会「子どもたちのいのちを守るために」 (10/17 実施)	八王子市教育センター
道徳部	研究授業・研究協議 (7/11・11/22・11/26・1/14 実施)	7/11 由木中学校 11/22 第五中学校 11/26 陵南中学校 1/14 甲ノ原中学校
特別支援 教育部	特別支援学級：研究授業と協議会 特別支援教室：研究発表と講演	いずみの森義務教育学校 浅川中学校

Ⅲ 令和6年度 八王子市立中学校教育研究協議会 事業報告

令和6年（2024年）

4月17日（水）領域主任会・教科主任会【教育センター、他】

5月13日（月）第1回 幹事会【教育センター】

6月 5日（水）代議員総会（紙面総会にて実施）

（令和5年度事業報告・会計決算報告）

（令和6年度役員・部長・幹事等紹介、事業計画案・予算案審議）

9月12日（木）第2回 幹事会【教育センター】

（各部活動報告、一斉部会について、研究概要について）

11月 6日（水）一斉部会【各領域・教科会場】 ※午後授業カット

令和7年（2025年）

1月16日（木）～20日（月）八王子市小中合同作品展「おおるり展」
【エスフォルタアリーナ】

2月 4日（火）第3回 幹事会【教育センター】

（今年度のまとめ、次年度日程、次年度予算要望、研究概要進捗報告）

3月 6日（木）第4回 幹事会【教育センター】

（次年度配当予算案、次年度総会準備）※案の提示

IV 各部のあゆみ

1 国語部

部長 中嶋 富美代

国語部では、「生徒の課題をふまえた指導法と評価の工夫」を今年度の研修テーマに掲げた。38校を8つの小ブロックに分け、研修推進委員会を中心に主体的に研修を進めた。一斉部会では、各ブロックの研究授業および協議会を報告する発表会を行った。東京都公立学校美術展覧会には書写作品を出品した。

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科主任会	4月17日	教育センター	研修テーマ・年間活動計画等の検討
読書感想文審査会	9月26日	いずみの森 義務教育学校	都読書感想文コンクールの地区代表審査
ブロック研究授業	5月21日	櫛田中	渡邊 訓子 主任教諭による研究授業および協議会
	7月16日	別所中	浅尾 一郎 主任教諭による研究授業および協議会
	9月6日	第五中	垣内 いづみ主任教諭による研究授業および協議会
	9月17日	ひよどり山中	野中 麻梨恵 教諭による研究授業および協議会
	9月20日	横川中	小倉 げん 教諭による研究授業および協議会
	10月2日	四谷中	内山 愛唯 教諭による研究授業および協議会
	10月11日	上柚木中	大橋 里 指導教諭による研究授業および協議会
	10月23日	長房中	池澤 重宏 主幹教諭による研究授業および協議会
中教研一斉部会	11月6日	教育センター	研究授業・協議会の報告発表会 講師：元中央大学特任教授 笠井 正信 先生

2 社会部

部長 井上 竜太

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科・領域主任会	4月17日	館小中学校	役員選出・研修テーマ決定
夏季研修会	8月1日	いずみの森 義務教育学校	「協働的な学び」の実現の視点からの授業改善 講師：専修大学商学部 客員教授 斎藤 博志 先生
指導案検討会	8月21日 8月26日 8月27日	第六中学校 由木中学校 第五中学校	研究授業に向けた指導案検討
中教研一斉部会	11月6日	第五中学校 第六中学校 由木中学校	授業者 西村 佳子 教諭 講師：八王子市教育委員会学校教育部 教育指導課 中西 祥雄 指導主事 授業者 後藤 倫太郎 教諭 講師：八王子市教育委員会学校教育部 教育指導課 服部 隆 指導主事 授業者 細谷 泉美 主任教諭 講師：八王子市教育委員会学校教育部 教育指導課 山崎 晃司 指導主事

3 数 学 部

部長 沼本 邦広

年間テーマを『数学的活動を重視した学習指導』としました。一斉部会については、3つの会場において研究授業と研究協議会を実施しました。

会合の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科・領域主任会	4月17日	石川中学校	テーマの確認、幹事等選出
夏季研修会	8月20日	いずみの森 義務教育学校	「数学の『真正な学び』を求めて」 講師：新井 仁(都留文科大学教授)
一斉部会 ・研究授業 ・研究協議会	11月6日	陵南中学校	「関数 $y = ax^2$ 」 講師：福島 裕子 (八王子市教育委員会統括指導主事)
		第一中学校	「図形の調べ方」 講師：寺沢 亮 (八王子市立川口中学校校長)
		松木中学校	「図形の調べ方」 講師：新井 仁 (都留文科大学教授)

4 理 科 部

部長 小川 博文

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
理科部 教科主任研修	4月17日	第七中学校	今年度の活動：役員選出、研修テーマ・計画確認、予算会計の検討。
第16回 八王子中学校 科学コンクール	7月～審査 11月下旬 発表会 及び 表彰式	各中学校 各ブロック 八王子市 教育センター	各中学校での募集、支援、審査の後、各ブロックでの二次審査、最終審査。受賞者プレゼン指導、ポスター制作指導等、運営支援となる生徒研究指導・補助。
一斉部会	11月6日	第六中学校 甲ノ原中学校 七国中学校 別所中学校	・「個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業の実践」を共通主題として、4校で授業提案、研究協議を実施。提案授業内容、展開を事前に充分吟味し計画した。 ・ブロック毎の少人数部会とし、個別最適な学びでの学習用端末の活用と協働の場面を設定した授業展開の課題と展望について、活発な研究協議を行うことができた。講師より指導助言をいただき主題に迫った。

5 音楽部

部長 鴨狩 淳一

「主体的・創造的に表現・鑑賞し、音楽文化の理解を深める授業を目指して

「～協働的な学習による授業づくり～」を主題とし、授業研究等に取り組んだ。

4月17日	教科主任会	今年度のテーマ、部会組織、活動計画等検討
7月6日	実技研研修 (歌唱指導)	研修主題「音楽科の授業における発声法について」 講師：杉並区立杉森中学校 指導教諭 小作 典子 先生
9月7日	実技研修会 (合唱指導)	研修主題 「合唱『信じる』の歌唱指導」 講師：作曲家 松下 耕 氏
11月6日	一斉部会 (歌唱)	研究授業「歌唱『赤とんぼ』(第1学年)」 授業者 八王子市立みなみ野中学校 山城 拓郎 主任教諭 講師：武蔵野音楽大学 非常勤講師 前田 賢一 先生
2月20日	研修会 (評価・評定)	研修主題「音楽の授業における評価・評定について」 講師：玉川大学芸術学部芸術教育学科 教授 清水 宏美 先生

6 美術部

部長 市場 陽一郎

本年度は、美術部会の活動は担当校での研修会および研究授業の実施、夏季研修会への参加、エスフォルタアリーナ八王子での、おおり展(市立小中学校合同作品展)を開催いたしました。また東京都公立学校美術展覧会を開催。都展への出展が生徒や教員の励みになると考えます。最後に関係の皆様のご協力に感謝いたします。

会合の名称	実施日	実施場所	活動内容
夏季研修会	7月31日	東京富士美術館	目的：美術館での研修を行い、授業力の向上、鑑賞教育の充実を図る。 ・内容・開催中の展示案内 ・施設見学(収蔵庫等館内のバックヤード含む) ・教材研究
研修1回目 研究授業及び 一斉部会にて 「おおり展」 打ち合わせ	11月6日	陵南中学校	題材名：「ハンドスカルプチャー」 (木彫による抽象立体制作) 領域：A表現(1)ア、(2)ア・B鑑賞(1)イ・ 〔共通事項〕(1)ア、イ 授業者：佐々木 睦 教諭
おおり展	1月16日 ～1月20日	エスフォルタアリーナ 八王子1階	おおり展作品搬入・展示・搬出
東京都公立学校 美術展覧会	2月14日 ～2月19日	東京都 美術館	東京都公立学校美術展覧会作品搬入・展示・搬出

7 保健体育部

部長 田野倉 教泰

今年度は、「学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法の工夫」をテーマとして、研究授業（一斉部会）を実施した。

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科・領域主任会	4月12日	教育センター	情報交換、幹事等選出
役員会（幹事校）	11月1日	由木中学校	指導案検討、一斉部会打合せ
一斉部会 研究授業 研究協議会	11月6日	由木中学校	
	○研究授業 「保健 健康な生活疾病の予防 医療・保健機関の利用」 3学年 男女共習 授業者： 由木中学校 矢内 将洋 教諭 ○研究協議会 ○指導・講評 講師：城山中学校 田野倉 教泰 校長 ○講演：八王子市 健康医療部(八王子市保健所)保健対策課 地域保健担当 保健師 新倉 康治 様		

8 技術部

部長 山口 徹

今年度は4月17日にて、第1回技術部会を開催し、その中で今年度研究計画について協議を行いました。研究テーマは、昨年度に引き続き「指導と評価の一本化のための学習評価改善に関する研修」を実施しました。

11月6日の中教研一斉部会では、由井中学校 斉藤康太指導教諭による研究授業を行いました。当日は多くの会員が参加をし、C領域「エネルギー変換の技術」の実習事例を学ぶことができました。また、評価材料と評価方法についての討議を行い、研究分野に関する理解を深めることが出来ました。11月27日には柵田中学校において八王子市教員研究生の斉東諒教諭による研究授業と東京学芸大学教授 大谷 忠 先生 をお招きしてD領域「双方向性のあるコンテンツプログラムによる問題解決」の研修会を行いました。12月5日には、檜原中学校において佐藤諒平教諭の研究授業を行いました。D領域「計測・制御のプログラミング」の実習事例を学ぶことが出来ました。

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科主任会	4月17日	教育センター	役員の選出・活動内容の検討
研究授業	11月6日	由井中学校	C領域 「エネルギー変換の技術」
研究授業	11月27日	柵田中学校	D領域 「双方向性のあるコンテンツ プログラムによる問題解決」 東京学芸大学 教授 大谷 忠 先生
研究授業	12月5日	檜原中学校	D領域 「計測・制御のプログラミング」
東京都公立学校 美術展覧会	2月12日～2月19日	東京都美術館	作品搬入、展示、搬出

9 家庭科部

部長 竹田 幸恵

今年度は、主体的・実践的な指導の工夫に重点を置いて研修を行った。これまで消費生活に重点を行ってきて、今年度は領域や分野を決めずに行い、授業後に意見・情報交換をする時間を増やした。講師の先生をお招きし、今後の指導に生かす視点や課題を学ぶことができた。

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
一斉部会	4月17日	横山中学校	年間計画、仕事分担他
授業公開・見学	7月10日	加住中学校	2年 おもちゃ作成
役員会	7月12日	第五中学校	夏季研修・研究授業・予算執行等
夏季実技研修	8月1日	都立農業高校	被服科見学、トートバッグ製作
研究授業	11月6日	第五中学校	1年 調理実習（消費者教育）
ものづくりフェア	11月中旬	板橋区立加賀中学校 女子栄養大学	運営・準備協力
全国中学生創造 ものづくり 教育フェア	1月下旬～ 2月上旬	六郷工科高等学校	運営・準備協力
研究授業	1月23日	石川中学校	2年 私たちの消費生活
東京都公立学校 美術展覧会	1月下旬～ 2月中旬	東京都美術館	展示準備・搬入・搬出

10 英語部

部長 酒井 章

「スピーキング能力の向上を目指した言語活動の工夫～ICTの効果的な活用を通じて～」を研究主題として、一斉部会での授業研究を行った。

会合等の名称	実施日	実施場所	活動内容
教科主任会	4月17日	甲ノ原中学校	今年度テーマ、部会組織、活動計画等検討
2・3年次研修	8月1日	打越中学校	「スピーキング能力の向上を目指した言語活動の工夫～ICTの効果的な活用を通じて～」 講師：順天堂大学 教授 佐藤 ひろみ 先生
一斉部会	11月6日	第五中学校	研究授業・研究協議会 1ブロック授業者 高橋 友依 教諭 講師：東京外国語大学 教授 根岸 雅史 先生
		川口中学校	2ブロック授業者 佐藤 真雄 主任教諭 講師：順天堂大学 教授 佐藤 ひろみ 先生
		陵南中学校	3ブロック授業者 中島 颯太 教諭 講師：国士館大学 教授 五十嵐 浩子 先生
		別所中学校	4ブロック授業者 小川 史哲 主幹教諭 講師：都留文科大学 非常勤講師 本多 敏幸 先生

1 1 養 護 部

部長 鷺尾 仁

年間計画に基づき研究を推進した。(会場：教育センター)

実施日	活動内容
4 月 17 日	領域主任会・教科主任会
5 月 24 日	研究計画、研究班の確認。 研究推進委員、事例提供者を選出。
6 月 9 日 7 月 16 日	事例検討会（研究班ごと）
9 月 3 日	事例検討の全体共有会
10 月 17 日 (中教研一斉部会)	講演会 「子どものいのちを守るために」 講師 埼玉大学教育学部附属教育総合センター研究員 日本救急医学会学校 BLS 教育導入検討委員会前委員 公益財団法人 AED 財団理事 元さいたま市教育長 桐淵 博先生
11 月 5 日	事例検討会（全体）
1 月 21 日	部内発表会 2 月 6 日 学校保健大会リハーサルを兼ねる

1 2 道 徳 部

部長 大房 裕司

実施日	内 容 等
4 月 17 日 (水)	領域主任会・教科主任会 鏈水中学校
7 月 11 日 (木)	「あなたは顔で差別しますか」授業者 由木中学校 池本 心和 主任教諭
8 月 23 日 (金)	道徳ナビ in 八王子 日本道徳学会近畿支部 講師代表：大阪府 貝塚市立西小学校 川崎 雅也 校長
11 月 22 日 (金)	「譲る気持ちはあるのに」授業者 第五中学校 高橋 友依 教諭
11 月 26 日 (火)	「いのちの花プロジェクト」授業者 陵南中学校 最上 芙美 教諭
12 月 20 日 (金)	宮上中学校道徳授業地区公開講座 講演 講師：畿央大学教育学部大学院 教授 島 恒生 先生
1 月 14 日 (火)	「合唱コンクール」授業者 甲ノ原中学校 煤田 由紀乃 主任教諭

1 3 特別支援教育部

部長 深瀬 健志

特別支援教育部では、今年度も定例会を二つに分けて、固定学級と特別支援教室ともに各校の指導や取り組みの様子、そして実践事例を参考に研修を行いました。初回は全体会、夏季休業中にはそれぞれの目的に合わせた研修の開催、11月の一斉部会では研究授業と研究発表を行いました。

今後も生徒の実態に合わせた指導方法や支援の在り方を検討するとともに、特別支援教育の専門性の向上を目指し、八王子市内の先生方の協力と連携のもとに進めていきたいと考えます。

教科・領域 主任会	4月17日	檜原中学校	今年度の活動について 研究テーマの確認
定例会	5月13日	いずみの森義務教育学校	役員会・幹事会 (予算・活動計画・研究について)
夏季研修	7月31日	特別支援学級： いずみの森義務教育学校	知的障がいのある生徒の高校生活や高校 卒業後の進路や生活について
	7月31日	特別支援教室： いずみの森義務教育学校	夏季研修会、小中連携について各校の実践 内容の発表、情報交換
一斉部会	11月6日	特別支援学級： いずみの森義務教育学校 特別支援教室： 浅川中学校	生徒の実態に合わせた指導と実践の工夫 授業者 齋藤 丈明 主任教諭 講 師：都立八王子西特別支援学校 坂口 しおり 校長 研究発表と講演 発表者 浅川中学校 池田 義則 主幹 教諭 講 師：創価大学指導講師 清水 和彦 先生
定例会	2月18日	第一中学校	今年度の活動報告 次年度に向けて

V 研究のまとめ

[国語部]

研究テーマ「生徒の課題を踏まえた指導法と評価の工夫」

八王子市立七国中学校 木元 弘法

I 研究テーマの設定方針

八王子市内においてもそれぞれの学校や地域において取り組むべき課題に違いがある中で、市内38校を8ブロックに分け、「八王子市学力調査」の結果分析を基に、それぞれのブロックや学校での課題を設定し、授業研究や協議会を行った。その研究成果のいずれもが、各校の国語教員にとって有益なものであり、それぞれの授業改善や生徒の国語力向上につながる有意義な研究であったと考えられる。



II 一斉部会研究授業報告の要点

1 各校の課題

(1) 知識・技能に関わる課題

- ① 小学校で習得すべき漢字学習の内容が十分に身につけていないこと。
- ② 熟語についての知識、使いこなす力が不十分であること。

(2) 思考・判断・表現に関わる課題

- ① 話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることが苦手であること。
- ② 文章を要約する際の構成の仕方がわからないこと。
- ③ 内容を把握する力が弱いこと。
- ④ 叙述を基に捉える力が低いこと。
- ⑤ 読む力が低下していること。



(3) 主体的に学習に取り組む態度に関わる課題

- ① 古典学習に対する意欲や主体性が低いこと。

2 上記の課題に対する各校の方策

- (1) 漢字学習の内容が十分に身に付いていないことに関しては、1-Aブロックが日々の授業で帯活動として行っている「漢字小テスト」を導入として活用した。また漢字を学習する意味や、そのように生活の役に立つのかを、自分事としてとらえられるように説明を行った。さらに生徒の興味・関心を高めさせるためにクローズドブックを用いた多義語クイズを行った。クイズ形式や、ICT端末の活用により、生徒の活動がスムーズになることや、生徒の意欲が向上し、深い学習につなげることができた。

- (2) 全国学力調査において「話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることができるかどうかを見る」という出題意図の問題の正答率が低いという結果と共に、内容を把握する力が弱いことや、文章を要約する際の構成の仕方がわからないという説明的文章に対する課題については、3-Bブロックでは

言葉を用いて説明する際にスモールステップでの導きを行うことや、書き出しの部分をこちらで提示すること、説明の型を提示しておくなどある程度型を決めておくことが有効であると分かった。また、1－Bブロックでは、文章中から生徒が答えの根拠となるようなキーワードを探す活動を段階を踏んで取り入れることで、読みが深まった。また、2－Aブロックでは、「人に説明する」学習活動の際、「難しい言葉の意味を理解して活用する」ことを意識させることで説明の仕方を工夫することができた。

叙述を基に捉える力が低い課題については、4－Aブロックの「叙述を比べて読むことで、より丁寧に主体的に文章を読むことにつながる。」という検証が有効であった。読む力が低下しているという課題については、朗読を「文字言語で表現された文学作品を音声言語で再表現する読み」と定義づけ、「解釈→表現」という学習過程を学習活動の中心とする4－Bブロックの取組が有効であった。

- (3) 古典学習に対する意欲や主体性が低いことについては、2－Bブロックの取組が有効であった。誰もが知るような「竹取物語」を題材とすることで、生徒が苦手意識をもたないようにする。また、その題材を学ぶことで出てくる疑問点(気になる点)について考えさせ、根拠をもった答えを出せるような指導の工夫をした。その際、少人数のグループで学習させることで、一人一人が問題と向き合い、答えを出す努力をすることができ、古典の授業に興味をもつことができるようになった。このように、古典の授業のやり方を工夫することで、生徒の苦手意識を払拭し、意欲や主体性をもつことができるようになることがわかった。3－Aブロックでは、生活の中で「故事成語」がどのように活用されているかを学ぶことで、自らの生活に結びつけることができた。

Ⅲ 講評とまとめ

「生徒一人一人の課題に応じる国語教室の実現を目指して」というテーマで元中央大学文学部特任教授、笠井正信先生から講評をいただいた。学ぶべき点の多い内容であった。

(1) 学びを推進し、充実した国語の授業とするための学習課題の設定

主体的な学びの実現には明確な解決すべき課題が前提になる。文学的文章の主人公の心情を捉える場合、その心情が変化したきっかけや理由、どのように変化したかという具体的な課題を出すことで、主体的な学びになる。また説明的文章では内容把握を行った後に本文の精査を行わせる。この精査というのは論理関係を疑うことや、根拠が根拠と成り得ているかを考えさせるような課題を出すことで、主体的な学びとなる。

(2) 対話的な学びの実現は探究を生み出す「問い」の精選と「答え」の関連性

学習指導要領の用語のままで問いかけるのではなく、教材や話題に即して教師が的確に問いかけを行うことで、真の対話が生まれ、その対話のなかで、答え探しをするのではなく、生徒自身が「なぜそうなるか」を考えることが、探究となる。従って、精査された問いかけができる教師となることが重要である。

[社会部]

「協働的な学び」の実現の視点からの授業改善

八王子市立館小中学校 黒田 ひとみ

I はじめに

昨年度までの「主体的に取り組む態度」の育成から、「協働的な学び」の実現の視点からの授業改善に研究内容を発展させ研修を進めた。

II 活動内容

1 夏季研修会 令和6年8月1日(木)

- (1) 参 加 26名
- (2) 会 場 いずみの森義務教育学校
- (3) 講 師 専修大学商学部 客員教授 斎藤 博志 先生
- (4) 内 容

協働的な学びの充実には、単に話し合いの時間を増やすのではなく、自分と異なる考え方に触れ、自らの考えを吟味できるよう授業計画を立てることを念頭に置きながら、
①協働的な学びにおける学習形態 ②協働的な学びをする上での留意点 ③協働的な学びを通して育てる自立的な学習者についてご指導をいただいた。

2 一斉部会 令和6年11月6日(水)

(1) 地理的分野

- ① 参 加 23名
- ② 会 場 八王子市立第五中学校
- ③ 授業者 西村 佳子 教諭(八王子市立第五中学校)
- ④ 講 師 八王子市教育委員会学校教育部教育指導課 中西 祥雄 指導主事
- ⑤ 内 容 「日本の諸地域 近畿地方」

単元を貫く問いを「住民にとっても観光客にとってもよりよい近畿地方とは、どのような姿なのだろう?」とし、「発表やそれに対する振り返りを通じて、近畿地方のよりよい未来について考えを深める」という単元目標を設定した。近畿地方の魅力や課題を調べたことをもとに、持続可能な観光を実現するためのプランを学習班ごとに作成し、スライドにまとめた。本時では作成したプランを発表し合い、最も地域の良さを伝えていると思うプランをその理由とともに選ばせて、よりよい近畿地方とするための大切だと思うポイントを考えて。

講師の中西指導主事からは、研究主題を中心に、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元することや子供一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切であることをご指導いただいた。

(2) 地理的分野

- ① 参 加 13名
- ② 会 場 八王子市立由木中学校
- ③ 授業者 細谷 泉美 主任教諭（八王子市立由木中学校）
- ④ 講 師 八王子市教育委員会学校教育部教育指導課 山崎 晃司 指導主事
- ⑤ 内 容 「世界の諸地域 ヨーロッパ州」

本単元では、空間的相互依存作用や地域に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。ヨーロッパ州では「ヨーロッパ州に見られる地域統合は、今後、どのように進展するだろうか」という単元を貫く問いを設定した。この問いを探究する活動を通して、ヨーロッパ州で見られる地域の広がりや地域内の結びつき等に注目させ、地域的特色と関連付けて考えさせた。

研究協議では、授業者が問題提起した「単元構成の工夫により協働的な学びが見られたか」「『単元見通しシート』の使用は効果的であったか」等、について意見交換した。その際、意見として「非認知能力の指標」が出席者から提案された。講師の山崎晃司指導主事からは「協働的な学び」の実現をテーマに、「問い」の重要性や単元を見通したワークシートについて、その目的や内容、授業改善の方法について御指導いただいた。

(3) 歴史的分野

- ① 参 加 22名
- ② 会 場 八王子市立第六中学校
- ③ 授業者 後藤 倫太郎 教諭（八王子市立第六中学校）
- ④ 講 師 八王子市教育委員会学校教育部教育指導課 服部 隆 指導主事
- ⑤ 内 容 「武家政権の内と外」

本単元では「中世の日本は周辺地域との関わりによってどのような影響を受けたのだろうか？」という単元を貫く学習課題を設定し、単元を貫く問いを解決するために毎時間の学習課題を設定した。本時では「日本は周辺地域との貿易によってどのような影響を受けたのだろうか？」という学習課題を設定し、ジグソー学習を取り入れた活動を行った。3つの役割を分担し、個人で考える時間とグループでの交流の時間を設けるなどして、本部会の研究主題である「協働的な学び」の実現を目指した。

研究協議では「本時の課題が多面的・多角的に理解できるものになっていたか」「グループ活動が協働的な学びの充実につながっていたか」等の視点で意見交換がされた。講師の服部指導主事からは「個別最適な学び」と「協働的な学び」は両輪であり、一体的に充実させていくことが大切であること。そしてそれこそが主体的・対話的で深い学びにつながっていくことなどについて御指導いただいた。

[数学部]

「数学的活動を重視した学習指導」 ～数学的見方・考え方を働かせる深い学びを目指して～

八王子市立石川中学校 沼本 邦広

I はじめに

今年度の数学部会では、「数学的活動を重視した学習指導」をテーマとして研究し、研修会（8月20日）と一斉部会（11月6日 3会場）を実施しました。

8月の研修会（講師：都留文科大学 教養学部 学校教育学科 教授 新井 仁 先生）は、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた講義をいただきました。それを基に、11月の一斉部会では、ICT機器を効果的に活用した新たな教材作りや主体的な学習活動を取り入れ、数学的な考え方の良さを実感できるような工夫がなされていました。今年度の活動を通して、学校間での連携が深まり、各数学科教員の更なる授業改善が進むことを期待しています。

来年度も研修会の回数や開催形式を工夫して、各先生方から出された要望や課題についての研修を深めることができればよいと考えています。

II 活動報告

研修会・研究授業

1 研修会

日 時 令和6年8月20日（火） 午後2時から午後4時まで
場 所 八王子市立いずみの森義務教育学校（参加78名）
講 師 都留文科大学 教養学部 学校教育学科 新井 仁 教授
内 容 数学の「真正な学び」を求めて Do a Subject!

- ・ドリルばかりではなく、実践的なゲーム（本物の活動）の中で味わえる、数学という教科の一番おいしいプロセスを子どもたちにゆだねる「教科する（do a subject）」授業を目指すことが重要である。
- ・子どもたちの目を学問の世界や現実の世の中へ開かせていく、人間的成長にもつながる質の高い学びを保証していくことが大切である。学問のにおい・ホンモノのにおいがする授業を実践する。
- ・11月の一斉授業者には、事前に簡易指導案を準備いただき、講師の新井先生からも指導をしていただいた。その後、ブロックごとに意見を出し合い、複数の意見を集約し、今後の授業研究につなげた。

2 一斉部会〔令和6年11月6日（水）〕

以下の3つの中学校を会場校とし、研究授業を実施した。

◇第一中学校 授業者 海野 洋 主任教諭（参加26名）

内容：図形の調べ方

講師：川口中学校 寺沢 亮 校長

◇陵南中学校 授業者 栃木 智哉 教諭（参加30名）

内容：関数 $y = ax^2$

講師：八王子市教育委員会 学校教育部 福島 裕子 統括指導主事

◇松木中学校 授業者 井上 淳 主任教諭・霧生 若絵 主任教諭・横森 暁 教諭

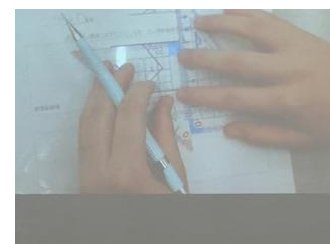
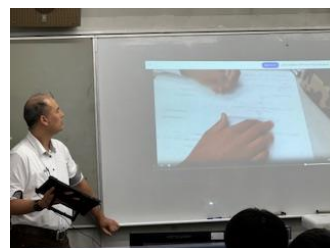
（参加47名）

内容：変化と対応

講師：都留文科大学教授 新井 仁 先生

◎研究授業について

- ・クロムブックを活用することで、生徒たちが主体的に学習に取り組むことができていた。図形の中の線分や直線の動かし方で、さまざまな展開へと広げていくこともできる。
- ・ICTの利用については、生徒たちの学習意欲を高められるというメリットもあるが、活用能力の個人差がある等、改善を要する課題もある。
- ・習熟度別クラスで、それぞれの生徒たちに合わせた展開、ICTの活用という工夫がされていた。また、話し合い活動や発表の方法等についてもさまざまな意見交換ができた。



◎協議会より

- ・発想を豊かにする教材の工夫があった。
- ・具体的な値から一般化させていったり、新たな考えのヒントを与えたり、生徒たちの様子を捉えながら考えさせていくことが重要である。
- ・教師の発問の仕方を再考することで、生徒たちが考える必要性をもったり、興味を示したりすることができるようになる。課題に対して、統合的・発展的に考えを巡らせるためにも発問について改めて見直していくことが重要である。

Ⅲ 今年度を振り返って

今年度も、一斉部会の前に研修会を設定した。一昨年度、昨年度に引き続き、都留文科大学の新井先生にご講義いただき、数学的活動をどのように取り入れ、生徒たちの「主体的な学び」への意欲につなげていくのかを、数学科教員が自分事として考える有意義な時間となった。

今年度、研究授業を行った3校とも、クロムブックを積極的に活用し、さらにどのように工夫ができるかという協議にまで広げることができた。ただ活用するだけでなく、いかに効果的に活用していくかという視点で研究をすることができた。

[理科部]

中教研理科部会活動報告

八王子市立第六中学校	三澤 美朋
八王子市立甲ノ原中学校	三池 幸一
八王子市立七国中学校	水田 穰
八王子市立別所中学校	佐藤 孝治

I 第1回理科部会（教科主任会）

- 1 日時 令和6年4月17日（水） 午後3時から午後4時15分まで
- 2 会場 八王子市立第七中学校理科室
- 3 内容 今年度の活動について 八王子市立加住小中学校 小川 博文 校長
幹事・会計担当について 研修テーマ・計画の確認
(1) 研修テーマ「個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業づくり」の承認
(2) 一斉部会における授業提案・授業研究会の計画
(3) 年間研修計画立案
(4) 予算会計の確認、検討

II 第2回理科部会（一斉部会）

- 1 日時 令和6年11月6日（水） 午後1時40分から午後4時まで
- 2 会場 八王子市立第六中学校理科室 八王子市立甲ノ原中学校理科室
八王子市立七国中学校理科室 八王子市立別所中学校理科室
- 3 内容
(1) 授業提案「個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業の実践」

『地球と大気の大気の変化 3章大気の変化と大気の動き』三澤 美朋 教諭（第六中学校）

「地球と大気の大気の変化」における第3章に焦点を当て、気圧配置と大気の動きの関係を理解させることを目的としている。具体的には、日本近海の高気圧や低気圧の移動が天気及ぼす影響を探究させる。授業のポイントとしては、前線の通過による天気の変化を考察し、雲の成因を学ぶことが挙げられる。また、生徒同士の意見交換やグループ活動を通じて、多面的な思考を促すことも重視している。ICT 機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指している。

『宇宙を観る 2章「太陽と恒星の動き」』三池 幸一 教諭（甲ノ原中学校）

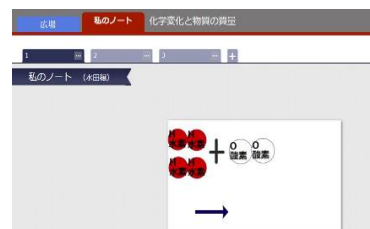
天体の観測に規則性を見つけるためには、地球上の視点だけでなく、地球の外から観察・考察するような視点も求められる。そのような視点を養うためには、天球儀や地球儀を用いたモデル実験や、コンピュータシミュレーションを用いる方法が効果的と考える。本時は、天体シミュレーションソフト「Stella Theater Lite」を活用することで、全天の星の1日の動きにどのような規則性があるのかを理解できるように授業を進めていく。また、観測地による違いもシミュレーションソフトを活用して理解を深めさせる。

『「化学変化と原子・分子」 第2章 物質を表す記号』水田 穰 主任教諭（七国中学校）

化学式と分子をモデル図で表したものを移動させて式に当てはめていくことができるようにすることで、原子の種類と数を視覚的に捉えることができ、化学反応式の組み立て方を理解す

ることを目指した。

右図のような教材をミライシード・ムーブノートで作成し、研究テーマの達成も目標とした。テンポが速く内容は盛り込み過ぎであったが、ほぼ全員が目標の課題を達成することができた。授業内容について参観者ともっと討論したかった。



『エネルギーの大きさと物体の高さや質量との関係（仕事とエネルギー）』

佐藤 孝治 主任教諭（別所中学校）

学習の流れや振り返りをクラスルームなど用いて、授業後に生徒だけで自主的に進められる授業づくりを心がけた。実験動画や実験結果をクラスルームで共有できるようにした。ミライシードのムーブノートを用いて、考察を発表した内容を残し、参考になるようにした。振り返りシートをつくり、理解できた部分と理解できていない部分を視覚化した。

(2) 授業研究協議

新井 直志 先生（筑波大学附属中学校副校長）…第六中学校
花田 英樹 先生（日本大学文理学部教職センター）…甲ノ原中学校
下田 治信 先生（杉並区立済美教育センター）…七国中学校
渡辺 恭秀 先生（東京都教育庁指導部指導企画課）…別所中学校

主として理科の授業における1人1台学習用端末等の個別最適な学びへの活用について、更に協働の場面を設定した授業展開、その課題と展望についての研究協議を行った。授業者自評、全体協議に引き続き講師より指導助言をいただき、テーマに迫った。

理解すべき内容	理解度	ミライシード ベーシックドリル
実験で高さや質量をかえて、物体の移動距離が測定できる。	▼	
実験の結果をグラフで表すことができる。	▼	
実験から、物体のもつエネルギーと高さや質量の関係を考えることができる。	▼	
物体のもつエネルギーと高さや質量の関係が理解できる。	▼	13-10, ⑩

Ⅲ 第16回 科学コンクール

市立中学校全校を対象とし、主に夏季休業中の自由研究として作品を募集し実施した。

1 選考方法

- (1) 各校から1～3作品を選出（一次審査）
- (2) 各ブロックで一次審査通過作品から5作品を選出（二次審査）
- (3) 二次審査を通過した計20作品から最優秀・優秀・奨励賞他6作品を選出（最終審査）

2 発表、表彰式

- (1) 日時 令和6年11月30日（土） 午後1時30分から午後4時まで
- (2) 会場 八王子市教育センター
- (3) 参加者 市長、教育長、指導担当部長、教育委員会関係、PTA会長、八王子市PTA関係、オリンパス（株）、SSISS 関係
- (4) 内容 PTAによる進行
 - ① 最優秀賞・優秀賞・奨励賞他受賞者によるプレゼンテーション。
 - ② 表彰式では、最優秀賞・優秀賞・奨励賞・サイエンスドーム賞（新設）に当たる生徒を表彰した。

[音楽部]

「主体的・創造的に表現・鑑賞し、音楽文化の理解を深める授業をめざして ～協働的な学習による授業づくり～」

I 研修会【音楽科の授業における発声法】 八王子市立みなみ野中学校 山城 拓郎

7月5日（木）八王子市立みなみ野中学校にて、杉並区立泉南中学校指導教諭、小作典子先生をお招きして、「音楽科の授業における発声法」という主題で研修を行った。各学校で合唱への取り組みが始まるにあたり、実際の授業でどのような発声法が効果的か、あるいはこの発声練習が生徒の歌唱活動のどの部分に生きるのか等、多くの悩みや疑問を持ち寄った中での本研修となった。

小作先生には、混声三部合唱に初挑戦する中学一年生を想定した授業を展開していただき、本市教員が生徒役として受講する模擬授業形式での研修となった。題材も多くの学校が扱う「カリブ夢の旅」を課題曲とした授業を見せていただき、変声期に悩む生徒や読譜がおぼつかない生徒もいることを配慮した内容を展開していただいた。歌唱指導には欠かせない「姿勢の指導」や授業開始時の「発声練習」などはもちろんのこと、楽曲の旋律とそれに追随する和声（ハモリ）を認識させること、言葉を明瞭に伝える指導を生徒任せのパート練習ではなく教員主導で行う授業展開を実際に目の当たりにすることで、自校ではどのように実践できるのかと各教員が考えながら研修を受講でき、実践に則した非常に有意義な研修となった。

II 実技研修会【合唱曲「信じる」】 八王子市立檜原中学校 中迫 千絢

9月10日（火）八王子市立第五中学校にて、作曲家の松下耕氏をお招きして、合唱「信じる」の実技研修を行った。「信じる」は2004年NHK合唱コンクール中学校の部の課題曲として依頼され作曲したこと、作詞を担当した谷川俊太郎氏から詩をいただいたときの感動や魅力、メロディがどのようにできたかなど、この曲が出来上がるまでの過程を知ることができた。そして、旋律や伴奏に込められた作曲者の思いや意図を、実際に合唱をしながら確認を行った。この曲に出てくるさまざまな感情を表す言葉を、より豊かに表現するために、休符の感じ方や間の取り方、助詞の歌い方、発音の仕方など技能的な細かい工夫を御指導いただき、改めて歌詞の内容や指導方法を考える機会となった。

また、合唱指導で歌詞について触れる際、指導する側の考えを押し付けたり、強制したりしないような発問の仕方の工夫、歌詞の内容に合った歌い方を生徒各々が工夫を考えられるような授業づくりをしていかなければならないと感じた。今回の研修は、曲の背景や作曲者の思いを知ること、より深い音楽表現をするための多くのヒントを得ることができ、今後の授業に大いに生かされるものとなった。

Ⅲ 研究授業【歌唱「赤とんぼ」】 八王子市立いずみの森義務教育学校 木下 知美

11月6日（水）みなみ野中学校にて、山城拓郎主任教諭による歌唱共通教材「赤とんぼ」（第1学年）を題材に研究授業を行った。1週間前には指導案検討会を担当ブロックで行い、日本語の発音、強弱、速さ、曲想等を生徒自身が考え、自分なりの意図をもって表現をする授業にするための検討を行った。楽譜とは異なっても各自が意図をもって表現するようにするか、ワークシートへの強弱記号の記載はどこまでするか等、活発な意見交換をすることができた。当日は、音楽の諸要素（強弱、速度、旋律）を聴き取り、曲想や歌詞の内容との関わり考えながら音楽表現を工夫することを学習課題として授業を行った。2種類の表現方法の異なる「赤とんぼ」の聴き比べでは、強弱や速度の違いを知覚し、9～12小節「おわててみたのはいつのひか」の強弱を考える活動では、各自が強弱記号を自由に書き込み、友達と意見交換をしながら、自分なりに工夫した表現方法で歌う積極的な姿勢が見られた。



協議会では、「表現方法の工夫をどのようにさせるか」について、「強弱を考えるのは難しく感じた」、「かけはなれた表現方法が出てきた場合どのように評価するのか」等、様々な意見があり、音楽科の授業における共通教材を扱う視点のもち方等を学ぶ貴重な機会となった。

また、指導・講評には、武蔵野音楽大学非常勤講師兼中央区教育委員会教育センター講師、前田賢一先生をお招きし、生徒を取り巻く環境の現状、学習指導要領の内容の確認等、授業づくりに役立つ内容の講話をいただいた。特に「教材を指導する」から「教材を通して資質・能力をはぐくむ」ために、授業者自身が様々な問いをたくさんもつ視点の講話は、具体的で大変分かりやすく、すぐに実践していける内容であり、大変有意義な研修となった。

Ⅳ 研修会【評価・評定】 八王子市立みなみ野中学校 山城 拓郎

2月20日（木）八王子市立みなみ野中学校にて、玉川大学芸術学部芸術教育学科 教授 清水宏美先生をお招きして、「音楽科の授業における評価・評定について」の研修を行った。

清水先生には、学習指導要領改訂時のキーワードや表現領域及び鑑賞領域の学習と3観点との関連付け、実際の授業での活動との結びつきについて、具体的な事例をもとに数多くご提示いただいた。生徒が題材や楽曲の構造をとらえやすく、自身の取り組みの成果を一目でとらえられるようなワークシートの工夫や見取ることが難しい評価物について検討し、実践に生かせる非常に有意義な研修となった。

Ⅴ. まとめ 八王子市立檜原中学校 中迫 千絢

今年度は、特に歌唱や合唱といった歌うことを軸に研修を行い、講義を受けることで学びを深めることができた。今後もよりよい指導の工夫を目指し、音楽科同士の情報共有と研鑽に取り組むことが必要不可欠である。今年度の取組全体を通して、今後の活動への一助となった。

[美術部]

八王子市立小中学校合同作品展「第20回おおるり展」報告

八王子市立浅川中学校 小山内 繁

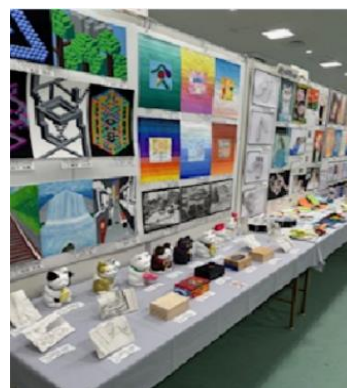
I はじめに

今年度で小中合同による作品展「おおるり展」は20回目の節目を迎えることができた。例年通りエスフォルタアリーナ八王子で行われ、市内各校の美術教育の取組が発表されていた。

「おおるり展」は各校の美術教育による成果発表の場であり、また、教員にとっては貴重な教員同士の交流の機会でもある。それぞれに多種多様な教材研究が進められており、多彩な成果が見受けられた。今後の題材研究のヒントを見つける教員も多く、これからの美術教育の充実に寄与できるだろう。さらに、「おおるり展」が子ども達の表現力や情操の発達に役立ち、展示の機会を通した目標の設定や達成感を得る体験になれば幸いである。

II 「おおるり展について」

- 1 主催 八王子市教育委員会・八王子市立公立小学校長会・八王子市立中学校長会
- 2 主管 八王子市立小学校教育研究会 書写部・図工部・家庭部
八王子市立中学校教育研究協議会 美術部
- 3 後援 八王子市立小学校PTA連合会・八王子市立中学校PTA連合会
- 4 期日 令和7年1月16日（木）～1月20日（月）
午前10時から午後7時まで
- 5 会場 エスフォルタアリーナ八王子
多目的室及び会議室（八王子市狭間町 1453-1）
- 6 作品搬入 令和7年1月15日（水）
- 7 作品搬出 令和7年1月20日（月）



III 内容・運営

- 1 作品収集・返却
 - ① 収集日時 令和7年1月14日（火）午前9時から午後4時30分まで
 - ② 収集方法 地域ごとに分けた7コースをトラックで回収する。
 - ③ 返却日時 令和7年1月21日（火）午前9時から午後4時30分まで
- 2 保護者案内通知
家庭科部が作成し、12月15日付けで各家庭・地域などに配布。



3 会場案内図（10,000 枚）

図工部が作成し、設営日に持ち込み用意

4 ポスター（A 2 カラー520 枚）

美術部が作成し、指導課が発注する。

1 2 月上旬に一斉配布する。

5 アンケート（10,000 枚）

書写部が作成し、指導課が印刷し、設営日に持ち込む。

6 開催期間中の従事体制

①教職員各部で時間区分、担当教員を設定し、作品の破損等の管理をする

②指導課及び市教委応援職員報道関係・P T A・来場者の対応

7 受付

小学校P T A連合会、中学校P T A連合会が担当

① 受付簿への記帳依頼

② カウンターによる来場者数確認

③ 会場案内図及びアンケートの配布



IV まとめ

「おおるり展」の開催を通して、期間中、会場にて、多くの保護者、市民の皆さんにご高覧いただいた。子どもや孫の作品を見に来た保護者で会場は賑わい、中学生の作品を観賞して感心している方も多く見られた。授業内にとどまらず広く観ていただくことは、「おおるり展」開催の意義を感じる事のできる良い機会である。また昨年度より東京都公立学校美術展覧会（都展）も再開され、より美術教育の向上につながると感じる。

展覧会を開催することによって、生徒の達成感に付与することができることに加え、教員にとっては今後の授業づくりの励みとなった。題材研究や展示方法のより一層の創意工夫が求められ、来年度の展望を再考し、より良い美術教育に努める次第である。

[保健体育部会]

「学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法の工夫」

課題解決型の授業実践と ICT 機器の有効的な活用

八王子市立中山中学校 野村 博樹

I はじめに

保健体育部会では「『学習指導要領の趣旨を踏まえた指導法の工夫』課題解決型の授業実践と ICT 機器の有効的な活用」をテーマとして、指導の工夫や男女共習、豊かなスポーツライフの実現、共生体育の実現に向けての研修を実施した。

II 活動報告

1 一斉部会（研究授業、研究協議会）

- ・日 時 令和6年11月6日（水）午後1時40分から午後4時まで
- ・場 所 八王子市立由木中学校 パソコン室
- ・授業者 八王子市立由木中学校 矢内 将洋 教諭
- ・講 師 八王子市 健康医療部（八王子市保健所）保健対策課 地域保健担当
保健師 新倉 康治 様
- ・参加者 保健体育科教員57名

2 研究授業「保健 健康な生活と疾病の予防 医療・保健機関の利用」

第3学年 男女共習

本授業は、3年生37名で行った。本単元では、健康が他者との関わりや社会的取組によって成り立っていくものであることを理解し、自らの行動を考えていく機会とする。また、年間を通してGoogle スライドでポートフォリオを作成したりFigJamを活用しているため、ICT 機器の活用がスムーズに行われていた。

導入では、単元の後期目標と本時の目標を確認して前時の学習をクイズ形式で振り返るとともに、保健機関の役割や利用の現状について理解した。

展開においては、保健機関と医療機関の役割について、授業プリントにアンダーラインを引きながら知識を整理していた。授業プリントは、学習のねらいや流れを時間に沿ってまとめられていて、生徒が見通しをもって学べるように工夫されていた。かかりつけ医を活用するメリットについては、動画視聴をした後にグループで話し合いを行うとともに、保健所と保健センターの違いについては、クイズ形式で行うなどしながら知識を整理していた。展開終盤では、本時の内容を踏まえながら保健機関の役割や利用における課題の解決策について、ミラيشードを活用しながら考えた。

まとめでは、FigJamを用いて、クラスで出された疑問（緑の付箋）に対して学んだ知識を活用して回答（オレンジの付箋）していた。知識や情報を整理・視覚化させるとともに、クラ



スで共有するために FigJam を効果的に活用していた。最後に、スライド（マイブレイン）に自分の考えやこれからの課題などを記入した。スライド（マイブレイン）には、単元を通した思考の変化や課題がポートフォリオとして作成されていた。知識や考えを時系列に沿って振り返るとともに、整理・分析をすることで新たな学びや課題の発見に効果的に活用していた。



3 研究協議会

授業者からは、ICT 機器の活用（FigJam、ミライシード、Google スライド）や授業プリントの工夫、QR コードについて、クラスメイトや自分の疑問に答える授業展開について説明した。質疑応答では、今までの保健授業の蓄積や準備に感心したという言葉や FigJam の活用方法や由木中での ICT 機器の活用方法などについての質問があった。参加者によるグループディスカッションでは、ICT 機器活用の課題や評価についての協議が行われていた。

（１）指導・講評

八王子市立城山中学校校長 東京都中学校体育連盟参与である、田野倉 教泰 先生から本時の授業や単元計画や授業プリントの工夫などについて御講評をいただいた。授業プリントは、ねらいや流れ、何をすることが分かることで見通しがもてること、何を学んだかが分かることから各学校でもぜひ活用してほしいというお話があった。また、評価や八王子 GIGA スクール構想におけるミライシードや Google for Education の活用の現状などについてお話をいただいた。評価については、生徒に納得感をもたせることが大切であると御指導いただいた。

（２）講演

八王子市健康医療部（八王子市保健所）保健対策課 地域保健担当 保健師の、新倉 泰治 様を講師としてお招きし、ヘルスプロモーションについて保健機関の役割と取組例や利用について、健康課題に応じた保健活動と現在の健康課題について御講演いただいた。特に、授業でも伝えてもらいたいこととして、医療・保健機関を上手に利用するためには援助希求能力が必要であることと、日々関わる周囲の大人の関わり方が大切であることを御指導いただいた。最後に、自殺対策を保健所と学校が連携強化・協働していくために、子どもたちや先生たちの声をもとに、できることを検討・実践していきたいというお言葉もいただき、大変有意義な講演会となった。

Ⅲ まとめ

今年度は「保健医療・保健機関の利用」の研究授業を通して、田野倉 教泰 校長先生からは、学習指導要領の趣旨を踏まえて、課題解決型の授業実践や ICT 機器の有効的な活用等について。保健師の新倉 泰治 様からは、保健・医療機関の役割や課題等について、多くのことを御指導いただいた。今回の研究授業は、ICT 機器を大変有効的に活用した授業であった。今後の授業改善につなげていきたい。

[技術部]

指導と評価の一体化のための学習評価の改善

八王子市立由井中学校 斉藤 康太

I はじめに

2030年の社会と子供たちの未来を見据え、学習指導要領が平成29年3月に改定され、令和3年4月から全面実施となった。学習指導要領の公示以降、学校教育の情報化が急速に進展している。

このような状況を踏まえ、中央審議会では、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」が取りまとめられた。今後の教育課程の在り方について、学習指導要領において示された資質・能力の育成を着実に進めることが重要であると考え。そのためには新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実が図られることが求められている。また、その際にはカリキュラム・マネジメントの取組を一層進めることが重要とされている。

現状の技術科教育において、作業方法を説明する時期は、教員が生徒全体の進み具合を把握し、進み具合に合わせて一斉指導を行うことが主流である。実際に作業を見せながら説明ができ、教員が模範となる作業を見せることで、生徒に作業のイメージをもたせることができるなど有効な方法である。一方で、その日に休んでしまった生徒は聞くことができないという課題もある。また、40人近くに一斉に見せるため、細かいところまで見ることができない生徒がいる。今自分が行っている作業とは違うところの説明を聞くことになるなども課題として挙げられる。そこで技術部会では、指導方法も検討をしながら、指導と評価を一体化させるために、学習評価の改善について研修を行った。研修の形態として、研究授業や講師を招聘して研修会を開催した。

II 研修の記録

1 研究授業

- (1) 日時 令和6年11月6日(水) 午後1時30分から午後4時まで
- (2) 場所 八王子市立由井中学校
- (3) 研修タイトル「評価方法(評価基準)の共有及び討議」
- (4) 内容 C領域「エネルギー変換の技術による問題の解決」
 - ①授業観察
 - ②使用教材について
 - ③授業内での評価の見取り方について
 - ④質疑応答

2 研究授業

- (1) 日時 令和6年11月27日(水) 午後1時30分から午後4時まで
- (2) 場所 八王子市立梶田中学校
- (3) 研修タイトル「双方向性のあるコンテンツプログラムによる問題解決」
- (4) 内容 D領域「双方向性のあるコンテンツプログラムによる問題解決」
 - ①授業観察
 - ②授業者自評
 - ③講師による講評
 - ④質疑応答

3 研究授業

- (1) 日時 令和6年12月5日(水) 3校時
- (2) 場所 八王子市立檜原中学校
- (3) 研修タイトル「3年次研修」
- (4) 内容 D領域「計測・制御のプログラミング」
 - ①授業観察

III まとめと課題

今年度は、これまでの中教研技術部会の研修内容を活用し、研究授業を中心に行った。

1回目の研究授業では、昨年度に引き続き「個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を目指した授業を行った。昨年度、評価の観点をどのように設定すべきなのかを検討した結果を活かした授業を行うことができた。昨年度の課題を意識しながら研究を進めることができたのは、大きな成果であると考えている。

2回目の研究授業では、東京学芸大学の教授である大谷忠先生をお招きして、研究授業の講評を行った。八王子市教員研究生の取組に技術部会として参加者を募り、参加した。

3回目の研究授業では、八王子市内の3年次の先生の研究授業に参加し、若手教員育成を技術部会として取り組んだ。技術科の教員は各校1名の配置のため、情報共有を行う機会が少なく、専門的なアドバイスを受けられるのは貴重な機会でありとても効果的な取組であった。

今後の課題として、より具体的な「個別最適な学びと、協働的な学び」の理解と実践方法について研究が必要である。技術分野は授業時数が限られており、現在の内容を生徒主体で進めた場合、時間数が足りなくなることが予想される。カリキュラム・マネジメントの重要性は理解できているが、具体的な方法が分かっていない。技術部会として取り扱うべき内容や、見通した指導計画を見直すなどカリキュラム・マネジメントの研究が必要であると考えられる。

[家庭科部]

「ICT を活用し、主体的・実践的に日常生活へ生かせる授業・評価の工夫」

八王子市立第五中学校 小杉 智代

I はじめに

今年度も昨年度に引き続き、授業・評価の工夫について研修を行った。昨年度までは、消費生活・環境の研修を軸としてきたが、他の領域の授業についても研修をする機会を作った。

II 研修のテーマ

「ICT 機器、Web 教材の活用」「学習内容を日常生活に生かす授業の工夫」

III 研修の成果

1 授業公開・見学 令和6年7月10日(水)

題材名 A 家族・家庭生活 私たちの成長と家族・家庭「幼児のおもちゃ作り」

授業者 加住中学校 島田 颯太 教諭

研究授業という形ではなく、授業者は公開、参加できる教員は見学という初めての形式で取り組んだ。おもちゃ作りの統一した課題ではなく、個々に工夫を凝らした作品を作る様子を見学できた。人数の少ない部会だが、全員の日程を合わせることが難しいため、今後も気軽にお互いの授業を見学できる雰囲気大切にしつつ、無理なく取り組める形を模索したい。

2 夏季研修

東京都立農業高等学校・被服科の見学・実技研修 令和6年8月1日(木)

被服科の授業での取組を紹介いただき、実際に作成した掲示物や製作した作品を見学させていただいた。夏季休業中に作業している生徒様子も見られた。また、リバーシブルの布を用いてトートバッグを製作した。今後の課題として、他の研修と重なり参加しにくい方が多かったので、還元研修をする機会を設けられると良い。

3 「磨け！消費者力」のデジタル教材化の改定（一斉部会等）

これまで、冊子の編集を行ってきたが、デジタル教材に変更になり、その編集を行った。今後、冊子教材からデジタル教材になった利点を活用につなげられるように検討を行い、改定を行った。来年度、必要に応じてデジタル教材の活用方法の意見・情報交換をする機会を作り、効果的な指導につなげたい。

4 情報交換・共有（一斉部会・研究授業等）

今年度、力を入れて取り組んだことに情報交換・共有がある。一斉部会や研究授業の折に、会員ひとりひとりが発言をする機会を設け、今後の授業展開に生かすための一助とすることが目的である。特に、一人教科であること、初任者が年々増加傾向にあること、産休代替や講師で公立中学校が未経験にも門戸を広げ、各校の授業実践を知ること自校の授業に生かしていただけることを目的として行い、一定の成果は得られた。

5 研究授業（一斉部会） 令和6年11月6日（水）

題材名 B 衣食住の生活 日常食の調理

「調理実習を振り返り、問題点や改善点を考える」

授業者 第五中学校 小杉 智代 教諭

講師 東京農工大学教授 上村 協子 先生

（授業者から）

この授業は、調理実習の1回目を実践した後、今後の授業で調理中のゴミ減量や液体せっけんの使用量の減量について考えさせ、次の調理実習に生かせる実践力を育むことを目的として指導の工夫を行った。これらの計量をすることを予告せずに行うことで意識をしない調理と意識をする調理の違いについて考えさせると共に、八王子市で推奨している『食品ロス削減プロジェクト』の「3キリ」を紹介し、学校のみならず、家庭でも実践できる生徒の育成を意識した。

題材名は「日常食の調理」だが、C 消費生活・環境の領域との関連付けを意識して取り組んだことで今後、別の領域でも幅広く様々な視点から考えさせるきっかけになった。今後も、領域を超えて取り組ませることにより授業で行ったことを実践につながると考える。

6 研究授業 令和7年1月23日（木）

題材名 C 消費生活 私たちの消費生活「購入方法と支払い方法」

授業者 石川中学校 笠井 友美 主任教諭

（授業者から）

今回は、消費生活を身近なものとして位置付けるため、日常の中でありえる題材を使用し授業を展開した。その際、授業の始めに内容説明を行いその後「オクリンクプラス」を使用し、班の中で話し合い活動を中心に授業を進めた。その結果、生徒たちが班で協力しながら考える時間を取ることができ、今回研究テーマに添った授業を行うことができた。

7 東京都公立学校美術展覧会（生徒作品の展示準備、搬入、見学、搬出）

於：東京都美術館 令和7年2月14日（金）～19日（水）

毎年、生徒の作品を展示しているが、参加する学校数の減少により、作品数のアンバランスが生じたため、今年度は年度当初に広く呼びかけ、学校数を広げ、様々な作品を展示できるようにした。展示準備は、1月28日（火）に昨年度に引き続きみなみ野中で行った。また、搬入及び搬出の係は未経験者にも積極的に働きかけた。搬入や搬出をする際に他地域の作品を見学する機会にもなり、今後の指導に活かせるとともに、出品した生徒にとっては大変貴重な経験となった。

IV まとめ

今年度は、1人教科として抱えている課題について、時間講師や産休代替の先生方にもお声がけし、部会を公開して情報交換ができた。特に調理・被服実習の実際について具体的な話し合いをする時間を持ち、今後の実習に活かすことを考えた。また、上村教授からエコカルタの紹介をいただいた。デジタル教材も含め、消費生活での活用方法を、今後模索していきたい。

[英語部]

研究主題：スピーキング能力の向上を目指した言語活動の工夫

～ICT の効果的な活用を通じて～

八王子市立加住中学校 菊池 敦子

I 研究主題設定の理由

現行の学習指導要領では、「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」・「学びに向かう力・人間性」という3つの柱を一体的に育成することが求められている。また外国語においては、4領域から5領域にかわり、「話すこと」が「話すこと（やり取り）」と「話すこと（発表）」に分けられたことと、4技能を統合的に活用するコミュニケーション能力の育成を図ることが求められることとなった。さらに東京都ではスピーキングテスト（ESTA-J）が導入され、3年間で継続的かつ段階的に話すことの指導を充実させていくことが大切になっている。八王子市では全中学3年生にEnglish central というアプリが無料で提供され、ICTを活用したスピーキング能力の向上のための教員の指導力も必要となっている。

そこで今年度、本会は、「スピーキング能力の向上を目指した言語活動の工夫～ICT の効果的な活用を通じて～」をテーマに取り上げ、生徒の英語力の向上を目指す。

II 研究の概要

1 2・3年次研修・協議会

令和6年8月1日（木）

講義・演習

テーマ「スピーキング能力の向上を目指した言語活動の工夫」

講師 順天堂大学 教授 佐藤 ひろみ 先生

2 一斉部会

令和6年11月6日（水）

本部会の部員に加え、本市に勤務する非常勤教員を含め百余名に広く参加を呼びかけた。既設の四つのブロックに分かれ、それぞれに研究授業・研究協議会を行った。授業者と講師・会場は次の通りである。

（1）第1ブロック

授業者 第五中学校 高橋 友依 教諭

講師 東京外国語大学 教授 根岸 雅史 先生

（2）第2ブロック

授業者 川口中学校 佐藤 真雄 主任教諭

講師 順天堂大学 教授 佐藤 ひろみ 先生

(3) 第3ブロック

授業者 陵南中学校 中島 颯太 教諭
講 師 国士舘大学 教授 五十嵐 浩子 先生

(4) 第4ブロック

授業者 別所中学校 小川 史哲 主幹教諭
講 師 都留文科大学 非常勤講師 本多 敏幸 先生

Ⅲ まとめ

8月に行った2・3年次教員を対象とした研修では、かつて八王子市内の中学校長であった順天堂大学教授の佐藤ひろみ先生を講師として招聘した。話すこと（やりとり・発表）の目標を改めて確認し、教科書の題材から、何を学びたいか、何を伝えたいのか課題意識をもたせ、主体的に取り組む態度を育成することの大切さをご指導いただいた。具体的な活動として、教科書本文を活用し、対話の続きを考え発表したり、感想や意見とその理由を発表したりすることで、読むことから話すことへと技能を統合させ、言語活動を通して資質・能力を育成する方法を学ぶことができた。

一斉部会では、各ブロックで研究授業を行った。今年度の研究主題「スピーキング能力の向上を目指した言語活動の工夫～ICTの効果的な活用を通じて～」に即して授業が行われ、自分の好きなものを即興で伝え合うこと、写真の内容を伝えるために考えを整理して説明し合うことを目標に授業が行われた。ICTの具体的な活用方法として、タブレットを活用して自分の好きなものを提示しながら伝え合うこと、教科書や自作の様々な写真を提示し説明し合うことが取り入れられていた。講師の先生方から講評をいただき、スピーキング力を高めるためにやり取り中心の授業を行うこと、毎日少しずつでも話すことや書くことを取り入れ、伝え合う場を設定することの大切さについて再考することができた。

終わりに、快く授業を公開していただいた先生方、丁寧にご指導いただいた講師の先生方に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。

[養護部]

研究テーマ「救急処置の事例検討」

八王子市立由井中学校 渡邊 直子

I はじめに

養護教諭の職務の一つに救急処置がある。養護教諭として経験が浅い時期はもちろん、長年経験しても、緊急時の対応や判断への不安が消えることはない。多くの養護教諭は自分の判断や処置について、これでよかったのか、よりよい方法はなかったのかと考え、助言や評価がほしいと感じている。定例会の情報交換で出される救急搬送事例に対し、さらに時間をかけて聞きたいとの声も多い。そこで、各校で実際に起こった事例の記録を持ち寄り、疑問質問を出し合い、良かった点と改善点を明らかにし、今後の対応につなげることが養護教諭のスキルアップとやりがい、また研究のスリム化にもつながると考え、本テーマを設定した。

II 研究方法

- 1 市内中学校を4つのブロックに分け、ブロックごとに2事例の検討会と、全体で1事例の検討会を行った。
- 2 元さいたま市教育委員会教育長 桐淵博先生を講師に招き、「ASUKA モデル」作成の経緯と緊急時の校内体制づくりを学んだ。
- 3 令和7年2月6日の八王子市学校保健大会において本研究成果を発表する。

III 研究内容

1 各ブロックの検討事例 6・7月

No.	診断名	検討内容
1	運動誘発性アナフィラキシー	食物アレルギー初発、養護教諭異動直後の校内体制
2	集団過呼吸	検診中の緊急時対応
3	けいれん	けいれんの初期対応、救急要請方法、携帯電話使用
4	頸椎硬膜外血種疑い	頭部打撲の経過観察、受診判断、チェックリスト
5	右手皮下異物	ミシン針貫通時の初期対応、救急搬送の判断
6	運動誘発性アナフィラキシーショック	食物アレルギー対応、養護教諭異動直後の校内体制
7	左頭蓋骨骨折、頭蓋内出血	頭部打撲の初期対応、部活動中の負傷対応
8	下位胸髄損傷の疑い	救急要請の行き違い、校内体制の見直し

2 全体の事例検討 11月

No.	診断名	検討内容
1	オーバードーズ	希死念慮、自殺企図、多機関連携を伴う緊急対応

事例の検討にあたっては、統一した書式に記載し、個人が特定されないよう、一部内容の変更を行った。

3 事例の全体共有

9月の部会では、1学期に各ブロックで検討した事例を全体で共有した。症状そのものが重篤で緊急性が高い事例と、組織内の危機管理体制に課題がある事例があった。

また、119番通報について、誰がどのように行うのか様々な事例と見解があり、根拠となる指針（文部科学省 学校事故対応に関する指針【改訂版】R6.3）を確認した。

4 講演会

子どもたちのいのちを守るために

～ASUKAモデルと小学校からの救命教育の推進～

講師 桐淵 博 先生

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター研究員／公益財団法人日本 AED 財団理事／
日本臨床救急医学会学校 BLS 教育導入検討委員会前委員／元さいたま市教育委員会教育長

平成23年9月、さいたま市立小学校6年の桐田明日香さんが、駅伝の課外練習中に倒れ、救急搬送後、翌30日に死亡する事故が起きた。この事故では倒れた当初、心肺蘇生法および AED の装着を行わなかったため、対応や危機管理体制が十分であったかなどが検証課題となった。当時、教育長として事故対応にあたったのが今回の講師である。再発防止策としてご遺族と共に ASUKA モデルを完成させるまでの経緯と思い、その後 ASUKA モデルで助かった事例をお話いただいた。

IV まとめ

1 養護教諭は救急処置の助言や評価が得られにくい

多くの養護教諭は一人職であり、救急処置そのものに対する助言や評価、検証が得られにくい。自らの処置判断が適切だったのかどうかを検証するために、受診した医療機関の医師に助言を求めたり、養護教諭自身が事例の振り返りをしたりと、各自の努力に任されている。

2 養護教諭が第一発見者になることは少ない

検討した事例の中で、養護教諭が第一発見者となった事例はなかった。

3 救急処置の事例検討は研究準備の負担が軽い

養護教諭は救急処置を記録する。事例検討はその記録をもとに行うため、研究準備の負担が軽く、少しの時間と労力で実践的なスキルアップを図ることができた。

V 課題

1 研修と評価システムの保障

最新の医学的知見をもとに、根拠に基づいた正確な処置判断をするための実践研修や、緊急対応後の評価システムの保障が必要である。

2 校内体制の整備

BLS（一次救命処置）など緊急性の高い処置判断は、誰が第一発見者となっても、養護教諭や管理職の到着を待たずに、実施できるよう校内体制を整備する必要がある。

[道徳部]

研究テーマ「人間としての生き方について考えを広げ深め自分を見つめる

道徳科授業◇郷土資料の開発と活用◇

八王子市立宮上中学校 海老澤 宏

I 研究テーマ設定の理由と研究の方法

道徳科の授業は、指導要領に基づいて実施される。目標にはこうある。「…道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」

授業の中心は、人間としての生き方についての考えを深めることである。そこで、人間としての生き方とは何か、どう考えを深めたらいいのかを部会の活動を通して探ることが日ごろの実践における授業力向上につながると考え、上記主題を設定した。

II 研究の方法

実践を重視し、各ブロック毎に最低1回研究授業を行い、課題の共有と解決に向けての話し合いを行った。また昨年度に引き続き日本道徳学会近畿支部の講師の先生方による「道徳ナビ in 八王子」の実施、また、宮上中学校道徳授業地区公開講座に畿央大学大学院教授の島恒生先生を講師としてお招きして道徳部会と共催とし、研修を深めた。

III 研究の内容

4月17日（水）領域主任会・教科主任会 於鑑水中学校

7月11日（木）研究授業「あなたは顔で差別しますか」

主題名 互いの個性や立場の尊重

授業者 由木中学校 池本 心和 主任教諭

内容項目 相互理解、寛容

指導・助言 鑑水中学校 大房 裕司 校長

8月23日（金）研修会「道徳ナビ in 八王子」

内容 模擬授業、指導講評、講演、教材分析と演習

講師 大阪府貝塚市立西小学校校長 川崎 雅也 先生

四天王寺大学教育学部教育学科 教授 杉中 康平 先生

大阪府和泉市立郷荘中学校 主幹教諭 松原 弘 先生

11月22日（金）研究授業「譲る気持ちはあるのに」

主題名 思いやりを形に

授業者 第五中学校 高橋 友依 教諭

内容項目 思いやり、感謝

指導・助言 鑑水中学校 大房 裕司 校長

1 1月26日（火）研究授業「いのちの花プロジェクト」

主題名 生命の尊厳

授業者 陵南中学校 教諭 最上 芙美

内容項目 生命の尊さ

指導・助言 陵南中学校 坂内 聡 校長

1 2月20日（金）宮上中学校道徳授業地区公開講座

授業 1年「あなたならどうしますか」

内容項目 公正、公平、社会正義

2年「六千人の命のビザ」

内容項目 国際理解、国際貢献

3年「カーテンの向こう」

内容項目 よりよく生きる喜び

1組「こんなときどうする？～日常の学校生活の中」

指導・講評・講演 畿央大学教育学部大学院教授 島 恒生 先生

1 月14日（火） 研究授業「合唱コンクール」

主題名 集団生活の協力

授業者 甲ノ原中学校 煤田 由紀乃 主任教諭

内容項目 よりよい学校生活、集団生活の充実

指導・助言 横川中学校 近藤 政男 副校長

IV 成果と課題

授業研究を重ねることで、課題意識や様々な工夫について共有することができた。しかし、授業は自由に発想し行うことが大切であるとは言え、基本を意識した上で多様な指導方法について意見交換をすることも必要であり、基本についてどう研修を深めるのが効率的かが課題である。

また、郷土資料及びその指導案の作成、修正と活用については、今年度行うことができなかった。これも来年度の課題である。

[特別支援教育部]

特別支援学級：生徒の実態に合わせた指導と実態の工夫

特別支援教室：特別支援教室における小中連携

八王子市立第一中学校 小島 芽伊

八王子市立上柚木中学校 石橋 妥乙

I はじめに

令和元年度より、特別支援教育部は定例会を二つに分けて研修・協議を行っている。特別支援学級は、今年度の研究テーマを「生徒の実態に合わせた指導の実践と工夫」とし、昨年度と同様、夏季研修会と研究授業を実施した。特別支援についての具体的な指導の工夫や、卒業後の生活などについても学びを深めることができた。

特別支援教室は「特別支援教室における小中連携」を研究テーマに掲げ、夏季研修会では拠点校各校の取組を報告し合い、今後求められる連携方法は何かを話し合い理解を深めた。また、加住小中学校の実践発表から、具体的な取組を学ぶことができた。

II 研究の概要

1 特別支援学級

(1) 夏季研修会

日 時 令和6年7月31日（水） 午後2時から午後4時まで

会 場 八王子市立いずみの森義務教育学校

主題名 「知的障害のある生徒の実態と卒業後の生活について」

講 演 NPO 法人 Ohana 統括主事 大沼健司 先生

(2) 研究授業・講演

日 時 令和6年11月6日（水） 午後1時40分から午後4時まで

会 場 八王子市立いずみの森義務教育学校 体育館・交流ホール

主題名 「生徒の実態に合わせた指導と実践の工夫」

講 演 東京都立八王子西特別支援学校 校長 坂口しおり 先生

夏季研修会では、実際に特別支援学校を卒業した生徒の生活などについて、写真を用いたスライドで具体的に説明をしていただき、なかなか知ることがなかった卒業後の暮らしを知ることができた。

研究授業では、義務教育学校ならではの前期生と後期生との交流や、年齢に合わせての課題や、指導方法などを学んだ。坂口しおり校長先生の講演では、生徒の個性と向き合い、丁寧な指導をすることの大切さを学んだ。

2 通級指導学級・特別支援教室

(1) 実践発表

日 時 令和6年11月6日(水) 午後2時～午後4時まで
会 場 八王子市立浅川中学校
発表者 八王子市立加住小中学校 池田 義則 主幹教諭
内 容 「加住未来塾」実践報告

SSPSという理念に基づき、小中異校種の小集団授業を実施し、生徒の主体性を育む取組が進められている。卓球導入の事例では、内在的な教材を活かしつつ、身体運動が苦手な生徒でも取り組みやすい工夫と、注目行動にも温かい対応をしながら改善を図っていた。また、生徒の興味関心に基づいた学習活動の導入や、中学生が小学生を教えるサイクルの確立など、多様な取組が紹介された。職員室の環境デザインが連携を促進することや、小学校での退級を希望する生徒に対して、中学校教員が生徒の様子を伝え、再考を促したりする事例は、小中一貫教育のメリットを示唆するものであった。これらの取組は、生徒の成長を多角的に支援するために小中が連携する重要性を再確認させ、各校でより効果的な教育を実現する方策となるであろう。

(2) 講評・講演

講 師 創価大学指導講師 清水 和彦 先生
内 容 「小中連携における、特別支援教室のあり方」

小中連携を円滑に進めるためには、職員の資質向上が不可欠である。特に、保育や幼児教育に関する研修や修養は、子どもの発達段階を深く理解し、より効果的な指導を行う上で重要であると言える。SSWや巡回心理士といった専門家との連携も、多角的な視点から子どもたちを支援する上で有効である。効果的な指導法としては、インタラクション、モデリング、リハーサル、フィードバック、そして般化が挙げられる。

これらの指導法を実践することで、生徒は学習内容を深く理解し、自ら学びを深めていくことができる。

III まとめ

特別支援学級・特別支援教室、各々の実態に合った内容に絞って研修することができた。特別支援学級では、知的障害のある生徒の卒業後の生活を知ること、中学校のときに身に着けるべき力について、講演を通して学びを深めることができた。また、研究授業や、情報交換を通して、各校の抱えている問題を共有し、生徒一人ひとりの個性や発達の状態に合わせた指導内容の工夫の大切さを改めて実感することができた。特別支援教室は、小中一貫教育の実践事例や特別支援教育の知見に触れることができた。これらを通して、小中連携の重要性、多様な学びの重要性、効果的な指導法の多様性、特別支援教室の役割に改めて気づかされた。

今後も効果的な指導法の研究・実践、教職員の資質向上に取り組んでいきたい。

VI 令和6年度 八王子市立中学校教育研究協議会 組織

1 役員

会 長	植田 恭正（恩方中）
会長代理	沼本 邦広（石川中）
副 会 長	中村 清孝（第六中） 伊藤 映二（七国中）
事務局長	渡邊 和彦（恩方中）
会 計	宮島 謙二（第六中） 森田 浩史（七国中）
会計監査	梶 貴哉（第六中） 岩田 拓実（七国中）

2 教科・領域 （部長・副部長・幹事・会計）

教科 領域	部 長（校長）	副 部 長（副校長）	幹事（上段） 副幹事（中段） 会計（下段）
国 語	中嶋 富美代（いずみの森）	榎本 智也（打越中） 八重幡 理（第五中）	幹事 木元 弘法（七国中） 副幹事 伊藤 裕美（加住小中） 副幹事 三宅 隆介（松が谷中） 会計 大橋 里（上柚木中） 会計 三好 祐美（高尾山学園）
社 会	井上 竜太（館小中）	末次 哲侍（鏈水中） 佐野 貴宏（いずみの森）	黒田 ひとみ（館小中） 太田 皓稀（鏈水中）
数 学	沼本 邦広（石川中）	青森 一博（第四中） 松尾 克彦（別所中）	本橋 宏祐（中山中） 中村 真一（城山中） 畦原 空（石川中）
理 科	小川 博文（加住小中）	佐々木 仁（第二中） 吉田 る実（甲ノ原中）	井戸 季詠子（いずみの森） 三澤 美朋（第六中） 三池 幸一（甲ノ原中）
音 楽	鴨狩 淳一（第五中）	上野 仁弥（高尾山学園） 児山 友美（由木中）	中迫 千紬（檜原中） 永田 小夜子（甲ノ原中） 中島 綾乃（横川中）
美 術	市場 陽一郎（浅川中）	竹中 直（浅川中） 大野木 寛（いずみの森）	梶 貴哉（第六中） 小沼 秀夫（ひよどり山中） 奥田 りいな（長房中）
保健体育	田野倉 教泰（城山中）	渡部 裕一（川口中） 宮内 将之（第一中）	野村 博樹（中山中） 水野 浩一（陵南中） 保科 里子（松が谷中）
技 術	山口 徹（元八王子中）	富倉 潤（ひよどり山中） 齋藤 与志朗（長房中）	幹事 富田 優（打越中） 副幹事 齋東 諒（桐田中） 副幹事 才藤 隆司（中山中） 会計 坂井 乾太郎（川口中）
家 庭	竹田 幸恵（横山中）	鍋島 宏司（中山中） 三田村 宜幸（由井中）	小杉 智代（第五中） 笠井 友美（石川中） 松崎 あずさ（高尾山学園）
英 語	酒井 章（甲ノ原中）	星 雄介（館小中） 野中 哲夫（元八王子中）	菊池 敦子（加住小中） 菊地 穂子（由井中）
養 護	鷺尾 仁（宮上中）	小野 真理（宮上中） 高田 智行（陵南中）	渡邊 直子（由井中） 石井 榛菜（別所中）
道 徳	大房 裕司（鏈水中）	近藤 政男（横川中） 鈴木 啓太（上柚木中）	海老澤 宏（宮上中） 村松 諭（第七中） 萩原 啓（上柚木中）

教科領域	部 長（校長）	副 部 長（副校長）	幹事（上段）副幹事（中段） 会計（下段）
特別支援教育	深瀬 健志（檜原中）	山寄 太（南大沢中） 伊藤 映二（七国中）	【特別支援学級】 幹事 小島 芽伊（第一中） 副幹事 齋藤 文明（いずみの森） 【特別支援教室】 幹事 石橋 妥乙（上柚木中） 副幹事 池田 義則（加住小中） 会計 小泉 美名子（第一中）

3 学校幹事

学 校 名	学 校 幹 事 名	学 校 名	学 校 幹 事 名
第一中	石澤 早織	檜原中	小高 延江
第二中	鈴木 万希子	加住小中	菊池 敦子
第四中	佐藤 陽平	由井中	氏原 峻也
第五中	小又 裕幸	打越中	坂下 友美
第六中	宮島 謙二	みなみ野中	大倉 崇行
第七中	菊地 あやの	七国中	森田 浩史
ひよどり山中	小沼 秀夫	浅川中	白羽 陸
甲ノ原中	永田 小夜子	陵南中	成尾 弘行
石川中	井上 昌巳	由木中	吉田 諒
横山中	杉本 雅也	松が谷中	板山 寛久
長房中	小林 嶺央	中山中	本橋 宏祐
館小中	吉田 廉人	南大沢中	横山 典子
櫛田中	川西 輝子	宮上中	三留 孝之
元八王子中	長坂 良恵	別所中	正水 和久
四谷中	原田 和義	上柚木中	佐田 直樹
横川中	久城 美寿希	松木中	工藤 和子
城山中	中村 真一	鍵水中	田口 貴洋
恩方中	太田 俊佑	高尾山学園	齊藤 博幸
川口中	佐野 学	いずみの森 義務教育学校	山根 法子

編集委員

植田 恭正（恩方中）

沼本 邦広（石川中）

渡邊 和彦（恩方中）

伊藤 映二（七国中）

中村 清孝（第六中）

研究概要 第63号

令和7年3月発行

編集・発行 八王子市立中学校教育研究協議会

会 長 植田 恭正

（八王子市立恩方中学校長）